

人を対象とする生命科学・医学系研究に関する情報公開文書

この研究の詳細についてお知りになりたい方は、下欄の問い合わせ担当者まで直接お問い合わせください。

なお、この研究の研究対象者に該当すると思われる方の中で、ご自身の試料（例：血液など）や診療情報（例：カルテの情報など）をこの研究に使ってほしくないと思われた場合に、下欄の問い合わせ担当者までその旨をご連絡下さい。

《試料・情報の利用目的及び利用方法》	●研究の名称 掌蹠膿疱症の T 細胞サブセット変化からの病態解明
	●研究の対象 研究番号 20-104「皮膚疾患における生体試料レジストリの構築」に参加登録された方 (20名)
	●研究の目的 掌蹠膿疱症 (Palmoplantar Pustulosis: PPP) は手掌足底に小水疱や無菌性小膿疱を多発する難治性皮膚疾患であり、世界的にも日本人に多い疾患とされています。PPP はしばしば関節炎症を伴い、皮膚症状、関節症状により患者の生活の質は著しく障害されます。PPP の病態は不明ですが、皮膚炎症部位は組織学的に汗管を中心とした好中球浸潤を伴う事が特徴的所見の一つです。また扁桃炎、副鼻腔炎、齲歯などの慢性感染症の治療が PPP の改善につながることから、PPP は慢性感染症を起点とした汗管中心の好中球性炎症と考えられてきました。しかし近年の海外からの報告から、PPP 患者の末梢血では白血球の一種である T 細胞のバランス (T 細胞サブセットと言います。) の変化が報告され、T 細胞の関与が注目されています。しかしその生理的意義や日本人 PPP 患者における T 細胞サブセットの変化などは研究が進んでいません。治療においても、PPP に著効する治療は現在存在せず、複数の薬剤を組み合わせ治療を行いますが、一般に反応性は不良です。生物学的製剤が近年保険適用となったものの、治療反応性は必ずしも十分でなく、PPP では効果的な治療法の確立と新規病態解明が強く求められています。 この研究により PPP 病態における T 細胞サブセット変化とその生理的意義が明らかとなれば、T 細胞の観点からの病態理解、またその制御による新規 PPP 治療戦略が期待できるため、意義のある試みと考えられます。
●研究の期間	

人を対象とする生命科学・医学系研究に関する情報公開文書

	<p>研究機関の長による実施許可日から 2027 年 3 月末まで</p> <p>●利用又は提供を開始する予定日 研究機関の長による実施許可日</p> <p>●他の機関に提供する場合には、その方法 この研究では外部へ試料・情報を提供しません。</p>
<p>《利用し、又は提供する試料・情報の項目》</p>	<p>●研究に使用する試料・情報 情報：病歴、治療歴、副作用等の発生状況、重症度評価、カルテ番号、病理検体番号 等 試料：血液検体、皮膚組織検体</p>
<p>《利用する者の範囲》</p>	<p>●機関名および責任者名 浜松医科大学 皮膚科学講座 本田哲也</p>
<p>《試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称》</p>	<p>国立大学法人 浜松医科大学</p>
<p>《試料・情報の利用又は他の研究機関への提供の停止（受付方法含む）》</p>	<p>あなたの試料または情報を研究に使用することや、他の研究機関に提供することを望まない場合には、問い合わせ先まで連絡をいただければ、いつでも使用や提供を停止することができます。連絡方法は、以下《問い合わせ先》をご確認ください。</p>
<p>《資料の入手または閲覧》</p>	<p>この臨床研究の計画や方法については、あなたのご希望に応じて資料の要求または閲覧ができます。あなたのご自分の研究結果を知りたいと希望される場合は、研究担当者にその旨をお伝えいただければ、他の研究対象者に不利益が及ばない範囲内で、あなた自身にあなたの結果をお伝えします。希望された資料が他の研究対象者の個人情報の場合には、資料の提供または閲覧はできません。</p>

人を対象とする生命科学・医学系研究に関する情報公開文書

「情報の開示」	あなたご自身が研究の概要や結果などの情報の開示を希望される場合は、他の参加者に不利益が及ばない範囲内で、原則的に結果を開示いたします。しかし、情報の開示を希望されない場合は、開示いたしません。 また、本研究の参加者以外の方が情報の開示を希望する場合は、原則的に結果を開示いたしません。
「問い合わせ先」	〒431-3192 浜松市中央区半田山一丁目 20 番 1 号 浜松医科大学 部署名： 皮膚科学講座 担当者： 小倉康晶 TEL： 053-435-2303 E-mail： y.o523@hama-med.ac.jp